

学校だより

【教育目標】

正直で

誰にでも優しく

最後までやりとげる



黒木の子



薩摩川内市立黒木小学校

黒木小 ドンマイドンマイ みんななかよし 世界の子供

立春号 R2. 2月

慈しむ(いつくむ)

黒木小学校長 鶴丸 修一

イギリスの童話作家マージョリー・ウィリアムズの作品に『ピロードのうさぎ』という作品があります。簡単なあらすじは次のようなものです。

ぼうやは、クリスマスにピロードのうさぎのおもちゃをプレゼントされました。しかしその後、親戚のおじさんが新しいおもちゃを持ってきました。男の子は新しいおもちゃに夢中で「ほんものみたい」と大喜びです。おもちゃ箱の隅っこに忘れられたうさぎは寂しくなって木馬に聞きました。「木馬さん『ほんもの』ってなあに？」すると木馬は「ただ遊ぶだけではなく、心から大切に大事に思われたおもちゃは『ほんもの』になるんだよ。ほんものには長いことかかってだんだん『なる』んだよ。ぼうやがおまえのことを肌身離さず、かわいがってくれた時に『なる』んじや。そして、一度ほんものになったら永遠にほんものでいられるんだよ。」と教えてくれました。ところがある日、男の子は伝染病にかかりました。うさぎは肌身離さずかわいがられていたために捨てられることになりました。でもうさぎには悔いはありませんでした。なぜなら男の子にかわいがられて『ほんもの』にしてもらえていたからです。ゴミ捨て場でうさぎが流した涙の後に、一輪のエメラルド色の花が咲きました。

※エメラルド…青みがかかった緑色

※ピロード(ポルトガル語)…英語でいうベルベット(織物のこと)

人も「ほんもの」になるには長い間慈しみ育てられることが必要です。辞典には、慈しみとは、かわいがって大事にするとあります。小学生の子供を持つ母親なら、赤ちゃんから1年生以前の頃を思い出せばよいのです。そして、母親の深い慈しみで我が子と触れ合えば「自尊心」が生まれるのです。人はみな自分以外の人から関心を寄せられ大切にされたいと思っています。なぜなら、人は自分が大切な存在であるとともに「価値ある存在」でありたいという欲求が強いからです。人は慈しまれることによって心が安定し、自分というものを肯定的に自覚できるようになるのだと思います。

これとは反対に、親が自分の子供に無関心であったり虐待したりすれば、子供の自尊心は傷つき否定的な考えになっていくでしょう。子供から「自分なんかきらいだ」「自分は愛されていないんだ」「自分なんかいないほうがいいんだ」などの言葉を聞けば親は悲しくなることと思います。自分のありのままを親から受け入れられて育った子供の心には、自信や勇気の心とともに「自己価値感情」(自尊心や自己肯定感)が生まれ成長するのだと思います。そういった心をこの幼少期から思春期にかけての小学校時代に生まれれば、将来遭遇する様々な困難を乗り越えていくことでしょう。

小学校時代は「思い出つくりの時代」です。3年生くらいまではしっかりと抱きしめる親子関係を基に『自分から見た自分』の良さを感じとらせることが大切です。「自分はできるもん」「一人でできるもん」そういった心を育みたいものです。時期が少し重なりますが3年生から5年生の初めにかけては『群れで遊ぶ経験』を積ませたいものです。この頃より友達の大切さがより重要になります。『他人から見た自分』を少しずつ実感させ「自分は友達からどう思われるか」など、友達から見た自分の姿に気づかせたいものです。

そして、子供たちは「思春期」を迎えます。この頃に自己価値感情(自尊心等)を低めるきっかけが生まれます。それは「他者との比較」です。人は人と比べるから不幸となるのです。昔こんな歌があったように「ナンバーワンにならなくていい、もともと特別なオンリーワン」でいけばいいのです。子供を教え導くという考えも大切ですが、時に一緒に育つという心も忘れずに子育てを楽しめばいいのです。「慈しむ」は、日本古来の和語です。似た言葉に「愛する」もありますが、我が子を抱いているお母さんの姿を見た時、慈しむの方が似合っていると感じました。

いよいよ、別れと出会いの季節です。若い頃は「春風(はるかぜ)や 闘志いだきて 丘にたつ」(高浜虚子の句)が好きでしたが、最近は「散る桜 残る桜も 散る桜」が味わい深いと感じるようになりました。決めるのは「自分の心」ですが、どちらがお好きですか。

学校関係者評価の結果

市教育委員会から委嘱された学校関係者評価委員の方々から、学校訪問や学校だより等をもとに、黒木小学校の学校運営の状況の評価をしていただきました。評価の結果は以下の通りです。限られた情報の中での評価は難しいものがあつたかと思いますが、第三者による目で見えた率直な感想やご意見は、信頼される開かれた学校づくりのための貴重な資料となります。評価委員の皆様ありがとうございました。

評価の観点	R1	H31	主な意見
1 学校の経営方針等が保護者や地域に伝わっている。	3.5	3.6	HPの更新頻度が高く、情報を伝えようとする姿勢が評価できる。
2 望ましい子供の姿に向かって数値目標を設定し努力している。	3.8	3.3	数値で目標と現状が分かる。
3 子供たちは楽しそうに生き生きと学校生活を送っている。	3.9	3.9	生き生きと授業を受けている。
4 いじめや不登校等、生徒指導上の課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。	3.8	3.4	指導の様子が家庭に伝わってこない部分がある。
5 子供たちの安全に細心の注意を払っている。	3.6	3.0	学校、PTA、地域と協力して安全を守っていきたい。
6 教職員は子供や保護者、地域との望ましい関係を築いている。	3.7	3.5	地域との行事を大切にしているところが評価できる。
7 学校は常に整理整頓、清掃され、花や緑に囲まれている。	3.3	3.5	どの季節にも花があつてよい。
8 学校の施設・設備は定期的に安全維持管理のための点検等がなされている。	3.3	3.0	学校見学では特に危険箇所は見られなかった。
9 子供たちの学力や体力の実態が保護者や地域によく知らされている。	3.6	3.7	学校だよりによく掲載されていて、子供の励みになっていると思われる。
10 保護者や地域は学校の教育活動に協力・支援を行っている。	3.8	3.9	P戸数は減っているがよく取り組まれている。
11 小中一貫教育は積極的に実践され、子供たちの姿として現れている。	3.5	3.1	交流や遠足等、町全体でよく取り組まれている。
12 薩摩川内元気塾は、子供たちに夢や元気を与えている。	3.8	3.4	様々な取組がなされている。
13 英語活動の推進について小学校の特質を生かして充実が図られている。	3.8	3.1	積極的にされているが、以前と中身は変わっているのか。
14 子供たちは、学校や地域で進んであいさつをしている。	4.0	3.0	会うたびによく挨拶してくれる。
15 信頼される学校づくりの取組は積極的に行われている。	3.6	3.4	学校だよりでの発信がよくなされている。

自分の可能性に挑戦！ ～なわとび大会～

2月8日(土)になわとび大会を開きました。子供たちはこの日までに、朝の活動や体育の時間に練習してきました。個人種目は、自分で二種目エントリーし、自己新記録を目指して跳びました。個人種目のあとは、各学年で、長縄でこれまでの最高記録を目指しました。一生懸命跳ぶ子供たちの姿は、応援するわたしたちに感動を与えてくれました。

大会後も休み時間になわとびの練習に取り組んでいる子供の姿を見かけます。これからもますます上達していくのだろうと期待しているところです。



3月の主な行事

- 4日(水)～10日(火) 6年生お別れ給食
- 6日(金)お別れ遠足
- 11日(水)シェイクアウト訓練
- 14日(土)高齢者とのふれ合いグランドゴルフ
(5、6年生)
- 17日(火)卒業式予行
- 24日(火)卒業式
- 25日(水)修了式
- 27日(金)離任式、PTA送別会

